入園・入学前に予防接種を

担 保健福祉局感染症医療政策課
☎582・2090

入園・入学のシーズンが近づいてきました。子どもは抵抗力を持っていないため、集団生活が始まるとさまざまな感染症にかかりやすいといわれていますが、予防接種により免疫をつけることで、感染症にかかりにくくなります。

入園・入学に備えて必要な予防接種を済ませ、感染症に負けない十分な抵抗力をつけましょう。なお、接種を受ける際は、母子健康手帳をご持参ください。

※ワクチンによっては、定められた期間の間隔をおいて複数回接種するものもあります。
※定期予防接種の接種費用は無料ですが、接種対象年齢でない人が接種を希望する場合は任意接種となり有料です。詳しくは問を。
※アレルギー体質などで予防接種を受けられない場合があります。また、接種後の副反応についても必ず事前に医師に相談してください。

定期予防接種一覧

対象となる病気	主な対象者	発生状況やワクチンの効果など
ジフテリア・百日せき・ポリオ・破傷風	第1期：生後2月から生後90月に至るまで 第2期：11歳以上13歳未満 （第2期はジフテリア・破傷風のみ）	四種混合ワクチンの接種で発症を予防できます。特に百日せきは、生後6カ月未満の乳児がかかると呼吸不全などで命に関わることがあります。
麻しん・風しん	第1期：生後12月から生後24月に至るまで 第2期：5歳以上7歳未満のうち、就学前1年	麻しん、風しんは、感染力が高く、保育園や小学校などで集団発生することがあります。風しんの流行は、生まれてくる赤ちゃんに障害を引き起こす「先天性風しん症候群」の原因にもなります。
日本脳炎	第1期：生後6月から生後90月に至るまで 第2期：9歳以上13歳未満	ウイルスに感染した場合、およそ1000人に1人が日本脳炎を発症し、発症した人の20～40%が亡くなるといわれています。
結核(BCG)	生後1歳に至るまで	かつて日本人の死亡原因の第1位でしたが、今も年間1万人以上の新しい患者が発生し、1600人以上が命を落としています。
Hib(ヒブ)感染症 肺炎球菌感染症(小児)	生後2月から生後60月に至るまで	いずれも細菌が原因で肺炎や髄膜炎などを引き起こします。ワクチン接種により重い症状になるリスクを95%以上減らすことができます。
子宮頸がん(ヒトパピローマウイルス感染症) ※令和5年4月から9価ワクチンが対象になりました。	小学6年～高校1年生相当の女子 【接種を逃した人へ(キャッチアップ接種)】 平成9年4月2日～平成21年4月1日生まれの女性は、定期接種の期間を過ぎた後も、令和7年3月31日まで無料で接種を受けることができます。	日本では、毎年約1.1万人の女性がかかり、約2900人が命を失っています。1クラス約35人の女子クラスとして置き換えてみると、2クラスに1人がかかり、10クラスに1人が命を失っている病気です。
水ぼうそう(水痘)	生後12月から生後36月に至るまで	水ぶくれと発疹が主な症状で、肺炎や脳炎など多くの合併症があります。成人や妊婦などは特に重症化のリスクが高いといわれています。
B型肝炎	生後1歳に至るまで	ウイルス性の肝炎を予防することで、将来発生する可能性のある肝疾患や肝臓がんを防ぐことができます。
ロタウイルス感染症	ロタリックス® 生後6～24週までに2回 ロタテック® 生後6～32週までに3回	ロタウイルスに感染すると、急性胃腸炎を引き起こし、激しい下痢を生じることがあります。ワクチン接種により、ロタウイルス胃腸炎を80～90%予防することができます。

問い合わせは各区役所健康相談コーナー

■門司区	■小倉北区	■小倉南区	■若松区	■八幡東区	■八幡西区	■戸畑区
☎331・1888	☎582・3440	☎951・4125	☎761・5327	☎671・6881	☎642・1444	☎871・2331

弾道ミサイル発射のメッセージが流れた場合の行動について

万が一に備え、どのような行動をとるのか事前に確認しておくことが重要です。

問 危機管理室危機管理課☎582・2110

▶情報発信について

- **弾道ミサイルは、発射してから極めて短時間で到達する可能性があります。**
- **ミサイルが落下する可能性がある場合は、スマートフォンなどに国が「緊急速報メール」などでお知らせします。**
  （例）「ミサイル発射、ミサイル発射。○○から、ミサイルが発射された模様です。建物の中、または地下に避難してください」
- **同時に、テレビやラジオでも情報が発信されます。**

▶メッセージが流れたら、落ち着いて直ちに行動してください

屋外にいる場合
- 近くのできるだけ頑丈な建物や地下に避難する。
- 近くに建物がない場合は、物陰に身を隠すか、地面に伏せて頭部を守る。

屋内にいる場合
- できるだけ窓から離れ、できれば窓のない部屋へ移動する。

▶近くにミサイルや破片などが落下した場合

屋外にいる場合
- 口と鼻をハンカチで覆い、現場から直ちに離れ、屋内か風上へ避難する。

落下物など不審物を発見したとき
- 決して近づかずに、警察や消防に通報する。

屋内にいる場合
- 換気扇などを止め、窓を閉める。目張りするなど室内を密閉する。

緊急速報メールを受け取れるかどうかの確認方法など詳細はホームページで確認できます。

▲市ホームページ
「弾道ミサイルが落下する可能性がある場合の行動について」